

## ● 論文発表の内容

### 当院におけるTESE及びTESE-ICSIの現況

徐クリニックARTセンター

馬場聖子 清須知栄子 徐東舜 宮川康 辻村晃

#### ■ 【目的】

当院では無精子症及び重度の乏精子症（運動精子濃度が10万/ml以下または認めないもの）の患者に対し、精子採取法としてTESE(simple-TESEまたはmicro-dissection-TESE)を行ってきた。今回TESEの成績とTESEにより得られた精子を用いた顕微授精でのART治療成績を合わせて検討したので報告する。

#### ■ 【対象・方法】

2007年1月から2009年6月までに当院で無精子症もしくは高度乏精子症の診断を行った25例[無精子症15例（非閉塞性無精子症10例、閉塞性無精子症5例）、重度の乏精子症10例]を対象とした。TESEの内訳はsimple-TESE 18例、micro-dissection-TESE 7例であった。simple-TESEは局所麻酔下で当院にて実施し、micro-dissection-TESEは関連施設泌尿器科で全身麻酔の下実施した。精子が回収でき顕微授精を行った20症例52周期（平均年齢：34.3±4.8）についてART治療成績を検討した。精子は全て凍結精子を使用した。

#### ■ 【結果】

simple-TESEの平均手術時間は $33.8 \pm 12.1$ 分、micro-dissection-TESEは $102.1 \pm 9.5$ 分でいずれも術後の合併症は認めなかった。精子が回収できた割合は非閉塞性無精子症では [simple-TESE 1/3 (33.3%) micro-dissection-TESE 4/7 (57.1%) ]、閉塞性無精子症では simple-TESEのみ 5/5 (100.0%) 、重度の乏精子症ではsimple-TESEのみ 10/10 (100.0%) であった。精子が回収できた20症例に関してのART成績は非閉塞性無精子症、閉塞性無精子症、重度の乏精子症において分割率はそれぞれ30/55 (54.5%)、47/71(66.1%)、67/123(54.5%)でいずれも有意差は見られなかった。良好胚率はそれぞれ2/30 (6.7%)、9/47(19.1%)、21/67(31.3%)で非閉塞性無精子症が重度の乏精子症と比較して有意に低い値となった。移植あたりの臨床妊娠率はそれぞれ2/9 (22.2%)、4/8(50.0%)、6/15(40.0%)でいずれも有意差は見られなかった。流産率はそれぞれ1/2 (50.0%)、1/4(25.0%)、0/6(0.0%)で非閉塞性無精子症が重度の乏精子症と比較して有意に高くなつた。

#### ■ 【考察】

閉塞性無精子症及び重度の乏精子症に対するsimple-TESEは入院施設のないクリニックでも施行できるため、今後の治療として積極的に取り入れるべきだと考えられる。